

North American News Briefs

2018年5月8日

ジェトロ・海外調査部米州課

シリコンバレー活用の鍵はディスラプションへの素早い適応 ～スタンフォード大学 榎田健児氏セミナー開催～

日本企業にもシリコンバレーの技術やリソースを活用しようとする動きがある中、いまだ必要な情報が国内に浸透していない現状を踏まえ、キャノングローバル戦略研究所主催の榎田健児セミナー「シリコンバレー経済圏の本質と、活用に向けた日本企業の試み-ワーストプラクティスを超えた模範例と試み」が4月24日に開催された。



榎田健児氏 (キャノングローバル戦略研究所提供)

講師の榎田健児氏は、スタンフォード大学 アジア太平洋研究所 日本研究プログラム リサーチスカラーで、日本企業とシリコンバレーのエコシステムを繋ぐスタンフォード・シリコンバレー・ニュージャパンプロジェクトのリーダーを務めており、日本企業とシリコンバレーの双方の現状に詳しい。

セミナーの中で榎田氏は、シリコンバレー企業が起こすディスラプション(創造的破壊)に日本企業が即時に適応(アジャスト)することが重要だと強調した。

また、最近の動向として、情報処理能力の劇的な向上と、豊富なコンピューティングリソースを背景とした、AIの発展を挙げた。プロセッサやメモリの性能・価格が飛躍的に向上し、リソースが十分となった今、色々な活動や物事をクリエイティブに測り、新たなデータを作り出して付加価値を高められるよう

になってきていると説明し、FAMGA(フェイスブック、アップル、マイクロソフト、グーグル、アマゾン)といった大手企業も AI 関連のスタートアップ企業の買収を進めるなど、AI に本腰を入れる姿勢が見られると述べた。

さらに、2016年にグーグルがDeepMindのAIプログラムでデータセンターの空調効率を40%向上し、15%の電力消費を削減した例を挙げ、近い将来、このDeepMindのAIプログラムを誰でも月10ドルで使えるようになったら何に使うかという問いを会場に投げかけ、人間の活動が自動化に向けて加速している現状を伝えた。



セミナーの様子(キャノングローバル戦略研究所提供)

日本企業がシリコンバレーを活用するためのベストプラクティスはまだ確立していないが、「ワーストプラクティス」を避けてオープンイノベーションを社内に存在しない技術や、開発に時間がかかりそうな技術に活用することが示された。

このほか、本セミナーの要旨および資料は、キャノングローバル戦略研究所の[ホームページ](#)に掲載される。

ジェトロにおいても、シリコンバレーへの展開を目指す企業に対し、事業計画策定から現地展示会への出展、商談までを一貫して支援する「ジェトロ・イノベーション・プログラム シリコンバレープログラム」を実施している(2018年度の応募期限は5月21日。詳細は[こちら](#))。

ジェトロ・海外調査部米州課
飯田 桃子

ジェトロは世界各国の経済政策、貿易・投資動向、制度情報などを、広範なネットワークを活用して調査・分析しております。「ビジネス短信」は、電子メールおよびウェブサイトによる情報提供サービスです。詳細は、<https://www.jetro.go.jp/biznews/> をご覧ください。

【注意事項】本資料は信頼できると思われる各種情報に基づいて作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。本資料の内容は執筆者の現時点での判断を示しているに過ぎません。ジェトロは本資料の論旨と一致しない他の資料を発行している、あるいは今後発行する場合があります。本資料は、ジェトロの著作物であり、著作権法により保護されております。ジェトロの事前の承諾なく、本資料の全部もしくは一部を複製、転送等により使用することを禁じます。